

平成30年5月31日

福生市議会 議長

杉山行男 様

横田基地対策特別委員会 委員長 串田金八

横田基地対策特別委員会視察報告書

<期間> 平成30年5月8日(火)～9日(水)

<視察先> (1)青森県三沢市
(2)航空自衛隊三沢基地(現地視察)
(3)三沢航空科学館(現地視察)

<調査事項> ①三沢市における基地対策について
(行政対応及び防衛補助事業/市民への情報提供及び安全対策)
②在日米軍三沢基地の状況について
③航空自衛隊三沢基地の状況について
④市及び市民への影響について
⑤市民との交流等について

<参加者> 委員長 串田金八
副委員長 佐藤弘治
委員 町田成司、五十嵐みさ、奥富喜一、乙津豊彦
大野聰、堀雄一郎、田村正秋
議長 杉山行男
議会事務局 大楠功晃、恒吉薫

<三沢市の概要>

市政施行 昭和 33 年 9 月 1 日

人口 39,804 人（平成 30 年 3 月 31 日現在）

男 19,597 人

女 20,207 人

世帯数 19,096 世帯



本州の最北端の青森県南東部にある三沢市は、東は太平洋に臨み、西は小川原湖を隔てて東北町、南はおいらせ町、北は六ヶ所村に接している。東西 11 キロメートル、南北 25 キロメートル、面積 119, 87 平方キロメートルの長方形で、海拔 57 メートルの頭部への緩い傾斜をもった平坦地である。

近郊の小川原湖をはじめ、十和田湖、八甲田山などの自然に恵まれた地域であり、伝統的な文化遺産および歴史的遺産も数多くみられる。

人口 39,804 人(H30 年 4 月 1 日現在)で福生市の人口の 7 割未満、産業人口別にみると第 1 次産業が 7%、第 2 次産業が 21%、第 3 次産業は 67 パーセントを占める。

市域の約 20%を占める三沢基地は、航空自衛隊でも数少ない日米共同使用基地であり、自衛隊の F-2 戦闘機、米軍の F-16 が常駐している北部防衛の要であり、安全保障上でも大変重要な基地である。また、自治体および運航会社と地元企業が出資する「三沢空港」もあり、軍民共用空港の顔ももっている。

平成 30 年度の一般会計予算額は歳入総額 22,480 百万円で自主財源は 6,981 百万円、内訳は市税が 4,397 百万円、繰入金 1,589 百万円、その他 995 百万円となっている。依存財源は 15,497 百万円で、国庫支出金 4,795 百万円。この内「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」等に基づく補助金は 2,715 百万円で約 57%

となっている。

<調査事項>

① 三沢市における基地対策について

■ 「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」に基づく各種施策

平成30年度三沢市の歳出予算総額22,480百万円のうち総務費は2,402百万円、このうち基地対策費は27,208千円となっている。その中核である「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」に基づく各種施策として、障害防止工事の助成(法第3条)、個人住宅防音工事助成事業(法第4条)、移転補償及び集団移転先地公共施設整備事業(法第5条)、民生安定施設の助成(法第8条)、特定防衛施設周辺整備調整交付金(法第9条)等の事業が挙げられる。

中でも市域の広い三沢市ならではの移転補償及び集団移転先地公共施設整備事業では5つの地区552戸が移転した。そのうち海岸近くの四川目地区、五川目地区はそれぞれ大津地区、前平地区へ移転したことで震災による浸水被害を免れたとのことであった。民生安定施設の助成事業による配水場の築造工事、医療機器の購入、特定防衛施設周辺整備調整交付金による消防車両の整備、再編交付金交付事業では三沢駅前広場整備事業で園路・歩道・照明施設等の外構整備(交通ターミナル)公共交通機関の待合室等の建物整備が行われている。

■ 基地安全対策連絡調整会議

市と「基地との共存共栄を主眼に、基地が所在することにより生ずる市民への諸々の不安やご心配ごとを少しでも取り除き、可能な限り快適で安全な市民生活環境を確保すること趣旨とする」基地安全対策連絡調整会議(以下「基地連絡会議」)が昭和62

年より設置されている。「これによって、市民に代わって市の基地連絡会議が基地関係機関から項目ごとの通告及び連絡を受け、それを市民に事前に知らせることによって著しい不安や心配を減少、除去し、これに係るさらに適切な対応策を国など関係機関に要請をする」

■ 米軍基地との共存共栄

三沢市は市政運営において米軍基地とは共存共栄の姿勢を堅持している。国に対して年2回、市議会の基地対策特別委員会と共に要望活動を行っている。またそれ以外にも三沢基地周辺に所在する市町村長で組織する三沢基地周辺連絡協議会による要望活動及び青森県及び基地に関係する県内各市町村で組織する青森県基地関係県市町村連絡協議会による要望活動を毎年行っている。

また、共存共栄の理念のもと、三沢市と三沢米軍基地との連絡協議会を設置し、緊密な協力により相互の親善を図るとともに、両者の社会関係を改善することを目的とし、情報の交換や両者相互に関係のある問題について協議を重ねている。

過去の案件として三沢市からは、「提供地内緑地の臨時使用」「ごみの不法投棄防止」「交通安全の徹底」「三沢空港発着路線の開設、利用促進」「グローバル人材養成セミナーへの協力」「自家用車両の任意保険の加入の徹底」「市防災行政無線による英語版津波放送の周知」などが提出された。

また米軍からは、「道路案内標識等の英語標記」「基地外住宅周辺の除雪作業」「地元の祭りに対する米軍人の参加」「転入オリエンテーションへの支援」「米軍人の住宅不足問題」「基地内スクールバスの市内運行の際の安全協力」などについて提案されている。



三沢市役所での視察研修の様子

② 在日米軍三沢基地の状況について

■ 経緯と概要

三沢基地は終戦直の昭和20年9月に米陸軍の第32施設工兵隊が進駐し、米陸軍航空軍のための飛行場として拡大整備が行われた。昭和33年に航空自衛隊の北部航空方面多隊が発足して、基地の日米共同使用を開始し、以降我が国の安全保障環境の変化に合わせて順次部隊等の改変が実施され、現在に至っている。

基地は、大きく区分して、三沢飛行場施設を中心として、三沢対地射爆撃場、米軍送油管施設(PLO、パイプライン)からなり、その面積は約22.15平方キロメートルとなっている。

主な米軍の配備部隊及び機種は、米空軍第35戦闘航空団、米海軍三沢航空基地隊(配備機種:F-16 戦闘機<約40機>)、米海軍第7艦隊哨戒偵察航空群/前方艦隊航空司令部 隷下部隊等(同:P-3C 対潜哨戒機<約10機>、C-12 輸送機<約1機>)、米陸軍統合戦術地上ステーション三沢情報運用センター、となっている。市内上空で急旋回・急上昇を行うF-16 戦闘機のデモフライトには多くの苦情が寄せられて

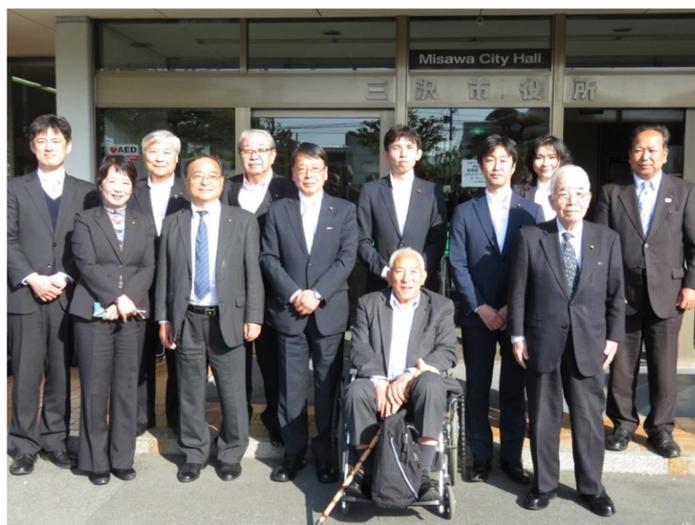
いる。

平成 26 年から平成 27 年にかけて、米軍の全世界的な人員削減の一環として、三沢基地所属の米軍人等について約 500 人の削減がなされ、これに伴い姉沼通信所にある巨大アンテナが解体されるとともに、米陸軍第 708 軍事情報分遣隊が閉鎖されている。現在の基地関係者の人口(平成 29 年 3 月末現在)は米軍軍人、軍属、家族等合わせ約 8000 人、基地従業員は合計で 1,324 人とのことであった。

■ 無人偵察機グローバル・ホークの一時展開について

グアム島のアンダーセン米空軍基地を拠点に運用されている無人偵察機グローバル・ホークの一時展開について以下のように説明があった。

平成 26 年 1 月に東北防衛局より、一次展開について説明があり、これを受け三沢市内各種団体等の意見聴取を行い、同 3 月、臨時庁議により三沢市として総括した。その結果、「やむを得ない」との判断に至り、受け入れ表明を行なった。平成 26 年 5 月より飛来して以来、平成 27 年 12 月まで一時展開が行われたが、平成 28 年 6 月に「今年度は、一時展開がない」旨の連絡があった。しかし同 10 月に機材機器の点検等のため、1 機が飛来し数日間滞在した。その後は平成 29 年 3 月に、滑走路改修工事により暫定措置として横田飛行場に一時展開する旨の連絡があった。



三沢市役所前にて

③ 航空自衛隊三沢基地の状況について

■ 概要について

昭和 33 年に航空自衛隊の北部航空方面隊が発足し、基地の日米共同使用が開始された。その後、安全保障環境の変化に伴い順次部隊等の改変が実施され現在に至っている。北部航空方面隊は、三沢基地に司令部を置き、戦闘機部隊の第 2 航空団（千歳基地）と第 3 航空団、レーダーによる警戒監視を行う北部航空警戒管制団、地对空ミサイル「ペトリオット」を装備する第 3 高射群（北海道）と第 6 高射群等の第一線戦闘部隊で構成され、概ね北海道および東北地方北部周辺の地区における防空任務や対領空侵犯措置を行っている。

主な配備部隊及び機種は次の通りである。北部航空方面隊司令部（F-35A 戦闘機〈1 機〉）、第 3 航空団（F-2 戦闘機〈約 20 機〉）、北部航空警戒管制団、第 6 高射群（T-4 中等練習機〈約 10 機〉）、警戒航空隊（E-2C 早期警戒機〈約 10 機〉）、三沢ヘリコプター空輸隊（CH-47J 輸送ヘリ〈3 機〉）。現在、自衛隊員は 3,090 人。また防衛省による滞空型無人機グローバルホークの配備が平成 31 年度以降予定されているとのこ

とだった。



航空自衛隊三沢基地での視察の様子

■ 国内初の日英共同訓練

平成28年1月の日英外務・防衛閣僚会合での合意に基づき、同年10月17日から11月9日まで、日英共同訓練が行われた。この訓練は部隊の戦術技量の向上並びに相互理解の促進及び防衛協力の更なる深化を図ることを目的とするもので人員約200名が参加、航空自衛隊が国内を拠点に米国以外の国と実施した初の共同訓練であった。



F-2 戦闘機の説明を受ける様子

④ 市及び市民への影響について

■ 騒音問題

三沢市は米軍が三沢基地に進駐して以降、飛行騒音問題に悩まされている。基地に起因する諸問題について、まず飛行騒音の苦情に関する説明があった。三沢市、三沢防衛事務所、自衛隊の3か所の受付があるとのことで、平成29年度は294件(平成27年度 494件、平成28年度 368件)、滑走路の改修工事の関係で少なかったとのことであった。

三沢市における飛行騒音の要因は三沢基地に常駐している米軍機、航空自衛隊機、さらには国外の各基地から飛来する戦闘機の諸訓練と沖縄を除くと本土では唯一の対地射爆撃場での諸訓練によるものである。特に米軍 F-16 によるデモフライト、24 時間行われる米軍の演習、また米軍及び自衛隊による夜間飛行訓練に対し、多くの苦情が寄せられている。

また、飛行騒音は市民生活のみならず畜産業等へも影響を及ぼしており、例えば、平成20年4月には五川目地区の牧場内において、航空機の騒音に驚いた乳牛が施設内の溝に転落し乳頭を負傷するなど、市内の家畜業者から苦情が多数寄せられている。

■ 米軍関係者による事件・事故の発生状況と対応

米軍基地を抱える自治体の共通課題は、米軍人等による事件、事故の発生とそれが及ぼす基地周辺住民の被害問題であり、三沢基地も例外ではない。現在までに米軍人による婦女暴行致傷、強制わいせつ、傷害、窃盗、建造物侵入などの事件が発生しており、その都度、市長や基地安全対策連絡調整会議議長(副市長)による再発防止の要請を行っている。

道路交通法改正により飲酒運転等の危険運転に対する刑罰が厳罰化され、取り締まりの強化とともに検挙される米軍人が増加したものの、近年はゼロから数件で推移してい

る。犯罪防止対策としては、憲兵隊と警察の合同パトロールの実施や、新たに転属してきた米軍人および家族に対して、一人ひとりが母国の大使の役を担っているという自覚をもたせるためにブリーフィングを実施したりするなど、厳しい指導と軍紀徹底のもとに地元住民とのトラブルや犯罪の防止に努めている。

⑤ 市民との交流等について

共存共栄の理念に基づいて、三沢市と三沢米軍基地はお互いの努力により非常に良い関係を築いている。ジャパンデーやアメリカンデーなどの交流事業、米軍からの共同募金、防災における相互協力、小学生による日米交流などを通じ、地元や米軍との関係については非常に良好であるとの説明を受けた。平成29年度、日米共催の航空際は9万人が来場したとのこと。また、自衛隊北部航空音楽隊は学生への演奏指導やアメリカンデーでの演奏などを行っている。

<三沢航空科学館（現地視察）>

青森県が平成9年2月に策定した新青森県長期総合プランは、未来力溢れる社会～未来を担う人づくりを重要な柱として位置づけている。また平成10年12月に策定した青森県科学技術振興指針においても、知恵の輪、技の輪、人の輪づくりをテーマとして、創意・工夫を結集する環境を整えることとしており、青森県立三沢航空科学館は、これらを具体的に実現する拠点施設として設置された。

館内には、1931年、三沢市淋代海岸から旅立ち世界初の太平洋無着陸横断飛行を達成した、ミス・ビードル号のレプリカや平成24年9月5日、十和田湖から引き上げられた、旧陸軍の「一式双発高等練習機」などが展示されていた。



十和田湖から引き揚げられた一式双発高等練習機

<所感>

三沢市に到着直後に視察した青森県立三沢航空科学館では、グループマネージャーの引地勝博氏に航空史における三沢市の役割や展示してある航空機にまつわる逸話など丁寧にご説明いただいた。また零式艦上戦闘機(ゼロ戦)への造詣が深く、当時の技術力の高さと当時の技術者の思いに感激した。歴史から日本人の心を学ぶ大切さを改めて感じた。運営については子供向けのイベントを多く開催し来場者数の増加を図っているとのこと非常に努力していると感じた。今回の調査項目とは関係ないが観光行政を考える上で参考になる部分が多かった。

三沢市の基地交付金は21億1300万円で歳入予算額の9.4%、福生市は16億2660万円で6.7%である。基地負担の大きさの違いはあると思うが分析し参考にしていく必要があると感じた。

また、三沢市は基地との共存共栄の理念のもと、良好な関係を築いている。米軍も国際交流事業やイベントへの参加、ボランティア活動、学校との交流などあらゆる機会を通じて市民との交流を積極的に行っている。福生市でも米軍との交流は行われているが、

この「共存共栄」を掲げ市政運営が行われている点が大きな違いである。基地に対するスタンスの違いはあるが、福生市も様々なレベルでのより活発な交流を通じて、市、市民、米軍、自衛隊それぞれ、お互いの理解を深める必要があると感じた。

また、三沢基地における米軍と航空自衛隊の関係について尋ねたところ、こちらについても非常に良好とのことであった。お互いのテリトリーも明確化されており、共同使用部分に関しても特に問題はないとのこと、共存共栄の理念と基地の歴史的経緯もあり、パートナーシップが確立されていると感じた。

視察2日目の航空自衛隊三沢基地では、司令官・副司令官に表敬訪問した。ここでも両司令から米軍との関係は良好である、とお話いただいた。また、女性自衛官の現状についても伺うことができた。全自衛隊員の約4%、三沢基地では約3%とのことであった。まもなく女性戦闘機パイロットが誕生するとのことであり、大いに期待したい。

繰り返しになるが、三沢市と福生市の基地に対する考え方等の違いがあるが、共通の課題も多く、それらに対する取組など参考になった。今後の活動に生かしていきたい。



三沢航空科学館にて

以上

2018(平成 30)年 5 月 30 日

福生市議会横田基地対策特別委員会

委員長 串田金八様

委員 乙津豊彦

横田基地対策特別委員会行政視察報告書（所感）

- ✦ 期間 平成 30 年 5 月 8 日（火）～5 月 9 日（水）
- ✦ 視察先 青森県三沢市、航空自衛隊三沢基地、三沢航空科学館

米空軍と航空自衛隊が共同使用している三沢飛行場を抱える青森県三沢市を視察し、諸問題を調査してきた。初日、三沢飛行場に着いた後、市バスで三沢航空科学館を視察し、午後は市役所にお邪魔して基地対策について研修した。二日目は航空自衛隊三沢基地を視察し、基地指令ともお会いすることができた。

以下感じたことを述べる。

【三沢航空科学館】

平成20年1月に正和会で三沢市を訪れた際、科学館に行こうとしたが月曜日で休館だったことを思い出した。今回は委員会視察で視察できることになった。

まず会議室で概要のレクチャを受けた。この施設は青森県立で平成15年8月8日に開館し、財団法人青い森みらい創造財団により委託管理していたが、平成18年4月より指定管理者による管理・運営になっている。説明を受けた後、展示場へ移動し展示物を見ながら説明を受けた。

この科学館には航空機を展示するほか、化学ゾーン、化学実験工房、こどもスクエアなどの施設があり一日中楽しめる。初めての太平洋横断飛行を成し遂げたミス・ビートル号、初の国産旅客機YS-11等に加え、十和田湖から69年ぶりに引き上げられた「立川キ54一式双発高等練習機」が展示されている。これは立川飛行機が製造したもので、エンジンは日野自動車製とのこと。いずれも東京の工場なので親近感が湧いた。指定管理者は展示のみならず各種イベントを企画しており、リピータを増やす努力をしているようだ。

屋外には実機が展示されており航空機ファンにはたまらない施設かもしれない。また、最上階（3階と思ったら展望室は6階部分）からは三沢基地が臨め航空機の離発着も見ることができる。係員の説明もとても詳しく良く理解できた。

【三沢市】

市役所にお邪魔し、担当者から調査事項について説明を受けた。平成30年度三沢市の一般会計予算規模（歳入・歳出）を見て当市との違いに驚いた。三沢市の人口は39,804人、面積は11,987㎡で当市と比べ人口は68.1%、面積は11.8倍だが、平成30年度当初予算は224億7800万円、当市が240億円と15億円しか変わらない。歳入においては市税が43億9700万円で19.6%、当市は80億45万円で32.8%である。歳出においては民生費が67億3500万円で30.0%、当市は120億1800万円で49.3%である。財源の基地交付金は21億1300万円で9.4%、当市は16億2660万円で6.7%である。いかに基地負担が大きいかが計り知れる。

質疑で、横田基地における米軍と航空自衛隊の間には米軍がテナントと呼んでおり肩身の狭い思いをしているようだが、三沢基地における米軍と航空自衛隊の関係聞いたところ、米軍と航空自衛隊並びに三沢市との関係は良好でお互いのテリ

トリーも決められており、共同使用部分も特に問題なく利用されているとのこと。歴史的要因もあるのではないだろうか。

市役所に伺う前に、10年前建設中だったアメリカ村を見てきた。この計画には福生市のキワコーポレーションが関わったはずで、ホームページには

スカイプラザミサワは中心市街地の活性化を担う拠点施設として平成21年にオープンしました。経営の基本方針を「米軍基地、アメリカ、インターナショナル」にこだわり、特徴のある店舗づくりを目指しています。

とある。スカイプラザミサワには福生の国道16号沿いの雰囲気のお店が並んでいるが、魚民とか笑笑とか聞いた名前の飲食店も出ている。確かにアメリカナイズされた街並みは感じられるが、人通りは少ない。中心市街地活性化は難しいテーマだったように感じた。

【航空自衛隊三沢基地】

航空自衛隊の会議室でブリーフィングの後、応接室で基地司令、同副司令とお会いできた。お二人で我々の席を回って名刺交換をしてくださったのは印象的であった。また、副司令はご実家が羽村市の宗禅寺の近くとのことで話が進んだ。

司令のお話でも米軍との関係は良好で、時によっては米軍専用地区も使わせてくれるとのこと。また、市の行事や基地の行事においても米軍が積極的に参加しているとのことであった。スクランブル発進訓練について聞いたところ、北方は比較的安定しておりスクランブル発進も少ないとのこと。

その後、市のバスで基地内を案内していただき、まず格納庫に入り、F-2を見学させていただいた。現職パイロットの隊員から詳しい説明を受けた後、タラップを昇り操縦席を見学、希望者には操縦席にも座らせていただいた。私はパスしたが以前F-15の操縦席に座ったことがあり、とても狭かった印象が残っている。

バスに戻り、基地を一周し案内された。とにかく広い、面積は16.00km²とのこと、嘉手納基地が約19.95km²なのでこれに続く広さか。ちなみに横田飛行場は7.136km²である。

三沢基地にはF-35が配備予定で1機が来ているが見ることはできなかった。また、グローバルホークも配備が計画されており国防上ますます重要性が増すのではなかろうか。

以上